



6月8日『保線部門におけるメンテナンス体制の最適化について』 大地申19号 に関する申し入れ交渉開催！！その②

3. 今施策における7年育成プランの考え方を示すこと。また、新規採用者の教育体制は基礎技術と安全意識の養成、保線技術の習得を最優先で行う体制を構築すること。

！7年育成について、今後も継続していくこと、コミュニケーションを濃くして育成していくことを確認！

組合：業務研究や現場第一線を若い人が主体的にやっている。否定するものではないが、育成プランの中で、保線業務をやっていくべきだと考えるが。

会社：技術確認シートを活用して確認している。今後も継続してやっていく。育成プランは変わらない。必要があれば、確認シートの項目の追加は出来るので、検討していく。

組合：若手と話をしている中で、押し付けられているというのを感じている人もいる。個人の適性を見ていただきたい。確認シートは自己申告。コミュニケーションをしっかり図り本人に課題認識させて欲しい。

会社：○がつけば良いというものではない。状況把握のためのツール。弱点を教育するために活用していく。

4. 今後の軌道設備強化計画を示すこと。また、線路保守業務を安全に行うために線路閉鎖長大間合の確保や線路閉鎖間合いの充実化、線路設備の改良・簡素化を積極的に行うこと。

！大宮駅構内など的一部分岐器は、早急な対応が必要であり組上に乗せることを確認！

！軌道の強化は、引き続き行っていくことを確認！

組合：今年度の計画は？

会社：日光線のロングレール化。USPという枕木で軌道強化。宮保管内の40Nレールの取替えを行っていく。

組合：大宮の構内は限界にきている。今やらなければ大変なことになるという問題意識だ。間合いが確保できないからということで先送りされている現状だ。あの時やっとけばよかったなという事では遅い。具体的計画を立てるべきだ。貨物絡みは早急に取替えるべき。

会社：会社としても同じ認識だ。今すぐ答えは出ないが、施工会社も含めて条件等が見えていない。検討のため、議論の組上にあげていく。必要であれば列車を止めてやる工事もある。現場と連携しながらやっていく。

5. パートナー会社の労働条件向上の観点から、保守手続きや保安打合せ等の部分においてスリム化するなど、パートナー会社の労力軽減に向けて現場実態を把握しながら改善を図ること。

！負担軽減に向け、現場・パートナー会社から声を聞きスリム化していくことを確認！

！線路はメンテナンスが必要であり、会社として近隣住民の方に理解を求めよう努力をしていくことを確認！

組合：保安打ち合わせは資料の提出が多い。簡略化できるのではないかとこの所を見ながら、パートナー会社の視点で考えることも必要ではないか。

会社：過去の事象からの対策でやっていることもあるが、中身を変えることは出来ると考えている。

組合：ルールの見直しは難しい。直せるところは直していこうという提起だ。簡単などころから手を付けていった方が良い。愚痴程度に言われることが、昔からの積み重ねになっている。

会社：他支社では大丈夫だという例もある。直せるところは直していく。

6. 今施策に伴う出向について、役割を明確にすること。また、出向については「労働条件に関する協約」（平成27年10月1日締結）に則り取り扱うこと。

！労働協約に基づき、出向は原則3年であることを確認！

組合：前提は本部一本社で議論があり地方交渉をしている。議論経過、議事録確認もある。それを受け止めていただきたい。

会社：本社一本社の議論は認識ある。出向の目的は指導や人材の育成等。会社として就業規則でやっていくという事で回答した。

組合：我々の問いは労働協約に則り扱ってくれというものだ。回答では納得しがたいものがある。

会社：出向は原則3年であり、出向で不利益な取り扱いはない。

組合：労働協約を順守していくことを確認する。